

発行所  
 日本聖公会 東北教区  
 仙台市青葉区国分町2-13-15  
 TEL 022-223-2349  
 FAX 022-223-2387  
 URL <http://nssk-tohoku.com/>

シリーズ「東北の信徒への手紙」  
**諸聖徒日によせて**  
 ～憶えて祈る～

主教 ヨハネ 吉田 雅人

秋も徐々に深まり、11月1日には「諸聖徒日」という祝日を迎えます。

教会が諸聖徒日を守るようになったのは、5世紀始め頃のシリアの教会で、よく知られている全ての殉教者と、全く知られていない殉教者を記念して祝ったのが、その始まりだそうです。そして後には全ての逝去者を憶えて祈るようになりまし。

よく知られている殉教者逝去者を記念することは、それほど難しいことではないでしょう。それは丁度、自分の親族や知人の死を記念する時のように、それらの人々の痛みや苦しみを、あるいは暖かい最後の交わりの時などを思い起こすことができるからです。けれども、全く知らない人を記念することは、とても難しいと思います。しかしそれが難しいと言って、私たちが記

念しないなら、私たちにとっては、それらの人々は無に等しくなってしまうでしょう。

父なる神様はそのようなこ



とをお望みではないと思いま

す。イエス様は人が無視してしまふような「これらの最も小さな者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである」と言われ、私たちが知っているようにいまいと、一人ひとりの人を大切にすることを

望んでおられるのです。私たちが知っていきましょうといまいと、その人の人生があり、死があるのです。その事実は空しいものではなく、私たちが考える以上にイエス様、神様にとって大切な人生なのです。そのことに私たちの想像力を、思いを巡らせることが大切なのだと思います。

2005年の夏、「聖公会国際礼拝協議会」に出席するために加藤主教様とチェコのプラハに行ったことがありました。その協議会終了後、私たちは2つの経験をしました。

1つは、8月6日、旧市内の聖ミクラーシュ教会で、広島犠牲者を憶えるレクイエム・コンサートが開かれていたことです。日本から遠く離れた中欧の教会が、60年前のヒロシマの出来事、原爆犠牲者の苦しみを憶えて祈って下さる。とても感激しました。

もう1つは、翌日に訪れたユダヤ人町の会堂（シナゴグ）で見た出来事です。プラハに残る6つのシナゴグの1つに、ピンカス・シナゴグがあります。そのシナゴグの壁面一杯に、人の名前と

生年月日が書かれていたのです。（写真）それはナチスの大量虐殺によってチェコで殺されたユダヤ人犠牲者、約7万8千人の名前だそうです。それは人々の生きていた証であり、痛みと苦しみの記憶でもあると思いました。まさにここでも人々は「憶えて祈り続けられて」いるのです。

諸聖徒日（に近い日曜日）、私たちはそれぞれの教会で神様のもとに凱旋された方々のお名前を呼んでお祈りします。それらの方々は私たちがよく知っている人、記憶に新しい人たちであると同時に、私たちが直接には知らない多くの信仰の先達たちです。その祈りは私たちの祈りだけではなく、すでに召された方々も天上の教会でイエス様と共に私

たちを憶えて祈ってください、共同の祈り、交わりの祈りです。この世で神様と隣人を愛して生きられた一人ひとりの人生を憶えて祈り、神様がその人々を迎え入れてくださっていることを感謝して祝う時、そこには真実の聖徒の交わりがあるのではないのでしょうか。

（東北教区主教）



去る9月8日・9日の両日、日本聖公会人権セミナーが開催されました。昨年は新型コロナウイルス禍により延期とされましたが、今年は当番にあたっていた北海道教区人権セミナー実行委員会のご尽力により、オンラインセミナーとして実現いたしました。参加者は50名程、東北教区からは私も含め2名(長谷川清純司祭)の参加でした。今回の研修会は、日本最北端の稚内から南へ車でおよそ1時間の日本海側豊富町幌延で行なわれる予定でしたが、集まることが叶わず残念に思っていました。オンライン研修にはフィールドワークもあり、あたかも自分が北海道の幌延にいるように驚き、準備をしてくださった北海道教区の皆さんのご努力に感服いたしました。

放射性廃棄物処分研究施設の「貯蔵工学センター」内を見学し、さらに、地元で酪農業を生業とされている久世薫嗣さんから「幌延問題の40年」と題する講演を伺いました。久世さんは、当初からこの問題に関わられ、現在「放射性物質廃棄物施設誘致に反対する道北連絡協議会」で活動されています。核のゴミの問題は、人間が大自然の中で不安なく幸せに暮らす権利を侵害する人権問題であると位置づけ、幌延問題の危機的状況を訴えられました。

第2日目は帯広聖公会の信徒・尾関敏明兄から「北海道と人権」をテーマに講演を聞きました。第1部はアイヌモシリに生きる民への差別、中国人朝鮮人に対する強制労働、タコ部屋労働という北海道開拓の歴史の陰の部分について教えられました。アイヌ民族への差別、搾取、同化政策はさまざま、今もその傷みは癒えることなくアイヌの方々の心に宿っていることを忘れてはなりません。講演の中で尾関兄が紹介された北海道大学助教でアイヌ民族の血筋にあ

る石原真衣さんの「共に生きる」という言葉が心に残りました。次に第2部として「核のゴミ問題」と幌別問題について講演されました。日本の核のゴミ(高レベル放射性廃棄物で、近くにいる生身の人間を2秒で殺すレベル)は今や18000トンに及び、ガラス固化体として保存して長期保存する方法が考えられて

おり、それでも不安定で非常に危険な状態にあること、そして、幌延の大地に深さ地下500メートルから1000メートルの立坑を掘って横に伸ばし、核のゴミを「地層処分」する研究を進めています。約束された研究期間が過ぎても、期間の延長が続き、いずれ最終処分地となってしまうのではないかとこの恐怖のなかにあるという現状を話

されました。実際に、「核のゴミ」は最終処分地や方法も未確定で、しかも「核燃料サイクル」はすでに破綻しており、今のままでは原発を稼働すればするほど核のゴミは増え続け、六ヶ所村の中間貯蔵施設に溜まり続けるという事態となります。幌延の問題は東北の問題でもあるということに気づかされ、危機感を深める研修となりました。

**「拡大青年担当者の集い」報告**  
東北教区青年担当  
セント・クリストファー 赤坂 聖矢

8月28日開催の「各教区青年担当者の集い」は、2020年に開催予定であった「全国青年大会」について、どのような開催形式があるのか、どのように準備を進めるのかについて話し合われました。

2020年の青年大会は、大阪を会場に開催する予定で実行委員会が組織され、準備を進めていました。しかし、直前で新型コロナウイルスの感染拡大が生

じて延期が決まり、開催の目処が立たないため実行委員会も一度解散となりました。

今回は「拡大」青年担当者の集い」として各教区から青年の代表も一緒に参加し、これまでの青年大会の概要を聞いたのち、次回青年大会へ向けてアイデアを共有しました。コロナ禍によって急速に普及したオンラインの活用をはじめ、先が見えない中でどのような開催方法になっても対応できるように準備を進める案や、実際に対面とオンラインを併用して開催したプログラムを例に挙げてのアイデア

など、青年大会開催に向けて様々な意見が飛び交いました。今回共有したアイデアを基に、青年委員会で再度協議を重ね、次回青年大会の枠組みを決めていくようです。

4年に1度、全国の青年が集う貴重な機会が延期となってしまうことは大変残念ですが、この機会に全国の青年たち自身が改めて青年が集う場について考える、貴重な時間が与えられたと感じています。次回の青年大会は、これまで以上に青年が主体となつて作り上げていく会になるのではないかと思います。

## 東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

11月11日～14日、ウイリアム神学館の神学生6名と黒田裕司祭、岩城聰司祭、前田伸子主事の計9名が東北研修に来られます。3年毎の海外研修(今年はカナダ)を新型コロナウイルス感染状況に鑑み断念し、東日本大震災から10年になる東北を訪れて研修しようとなり相談を受けました。11日は「東日本大震災を覚えて 午後2時46分の黙想」からスタート、吉田主教他PJメンバーらと懇談。12日は南三陸町で鈴木清美さんから被災体験談を聞き、震災復興祈念公園に立ち寄り、さんさん商店街で昼食、午後は大川伝承の会語り部のガイドで大川小学校震災遺構視察します。13日はカリタス南相馬スタッフの山田雅之さんガイドで原発周辺をフィールドトリップ、磯山聖ヨハネ教会「祈りの庭」で打鐘・祈禱します。14日は仙台基督教会で聖餐式、司式・説教は同行の司祭が務めます。必ずや将来の牧会宣教の糧になるはずです。

(長谷川)

## 常置委員会報告

(第13回・9月21日開催)

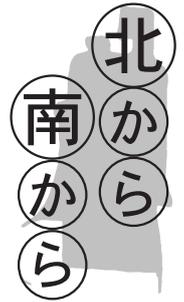
### ■協議事項

東日本大震災被災者支援プロジェクトの今後の活動について

諸プログラムの「終え方」について、広畑お茶会は100回を迎える時期を2022年3月頃としていたが、コロナ禍で活動休止している現況から多少ズレ込むこと、閑上買い物支援、水曜喫茶も同様であることをあらためて確認。時期が決まれば教区ホームページに載せて周知を図ることにとした。

宣教協働区についての共通理解と主教選挙に関する今後の進め方について

「宣教130周年記念礼拝」の際に、さらに11月23日の定期教区会の際にも、宣教協働区についての共通理解を深め、来年主教選挙を行うのか否かという課題に重点を置いて、教区民全体でこの課題に取り組んでいけるよう研修を計画することを確認。



### 弘前昇天教会

去る9月12日にシメオン工藤正志兄、アンナ工藤みどり姉ご夫妻が、管理牧師の長谷川清純司祭様から緊急洗礼を受けられました。正志兄は逝去後の洗礼になりましたが、生前は明星幼稚園の園バスの運転手をされた時期があり、幼稚園を通して教会に繋がりました。これからみどり姉は教会に連なる信徒として歩みを始められます。主に感謝。

### 秋田聖救主教会

10月3日、8月からの公開礼拝休止がやっと明け、久しぶりに礼拝堂に活気が戻りました。早い方は礼拝開始2時間前に礼拝堂に入り、久しぶりの礼拝のために準備に余念がありませんでした。まだ礼拝後の交わりには制限がありますが、ここに集うことのできる喜びを感じた主日でした。

### 仙台聖フランシス教会

仙台聖フランシス教会は今年もコロナウイルス感染症拡大の中で礼拝休止・再開を繰り返しながら信仰生活をしてい

## 公 示

日本聖公会東北教区第105(定期)教区会を下記のように招集します。

救主降生2021年9月1日  
日本聖公会東北教区  
教区会議長  
主教 ヨハネ 吉田 雅人<sup>④</sup>  
記

日時 2021年11月23日(火)  
午前9時から午後5時まで

場所 盛岡聖公会礼拝堂  
盛岡市中央通り3-14-14  
アートホテル盛岡  
盛岡市大通3-3-18

書記を下記のように指名します。

書記 司祭 林 国秀  
司祭 渡部 拓  
以 上

ます。何よりも残念なことは日曜学校に来るのを楽しみにしていた子どもたちが神様の家でお祈りを捧げることができなことです。一日も早く教会で子どもたちのお祈りの声を聴きたいです。

そのような中、10月10日のフランシス祭記念礼拝にて大槻洽威兄が堅信を受けました。これからの信仰生活の上に、神様の祝福を願います。

### 新庄聖マルコ教会

ススキ前線は新庄からはじまり、全国に広まっていくといわれています。(執筆中の)今は、穂の膨らんだススキが街を覆っています。短い秋を満喫しようと芋煮会を考えますが、コロナ禍でまだ我慢です。今春、聖マルコ幼稚園は閉園いたしました。教会通りは賑やかな声や軽やかな足音もなく寂しさを感じます。

教会のまわりも新しく住宅が建ち、マンションの建設が進み、次の時代へと歩み始めている気がします。

### 小名浜聖テモテ教会

主の御名を心より賛美いたします。

病院と幼児施設でのクラスター感染で9月30日まで出されていたまん延防止等重点措置がようやく解除になって、2カ月半振りに信徒の方々が集まり、感染対策には十分に注意しながら、10月3日には松本司祭様の司式で聖餐にあずかることができました。

10月2日には台風一過、晴天に恵まれ、園児と保護者のみでしたがテモテ幼稚園の運動会も開催できました。

### 洗礼おめでとう

シメオン 工藤 正志  
アンナ 工藤 みどり  
(9月12日・弘前)

### 永遠の平安

シメオン 工藤 正志  
(9月12日・弘前)

11月28日は「人権活動を支える主日」です。人権を守るための様々な活動を覚えて祈り、献金をお献げください。

### 11月逝去者記念聖餐式

11月2日(火) 午前10時  
於 主教座聖堂  
司式 吉田 雅人 主教  
説教 加藤 博道 主教

- 主教 ライト前川 眞二郎 1953年11月1日逝去
- 宣教師 Miss Bessie McKim 1973年11月5日逝去
- 司祭 西村 敬太郎 1971年11月7日逝去
- 司祭 マルコ植松 金蔵 1975年11月7日逝去
- 伝道師 松下 一郎 1918年11月10日逝去
- 司祭 大野 要蔵 1938年11月11日逝去
- 司祭 ヨハネ伴 君保 1956年11月11日逝去
- 司祭 ガブリエル稲沢 忠信 1988年11月12日逝去
- 司祭 今井 献 2007年11月27日逝去
- 伝道師 白石 村治 1929年11月28日逝去
- 女執事 Miss Anna Love Ranson 1969年11月28日逝去

**10月中旬発刊**  
**聖公会手帳 2022年版**  
2022年度教会暦・日課表を完全収録  
背表紙に全文で「日本聖公会」と表記  
祈りの詞を大幅増補、利便性を更に追求  
大型判 2,200円(税込)  
ポケット判 1,200円(税込)  
お申込みは、バイブルハウス盛岡書店まで  
(0333671995)  
※インターネットでも注文可能